

健康通信

がんの骨転移と放射線治療



放射線科 部長医師

平澤 直樹

がんは自分に関係ない病気だと思っ
ている人いませんか？

がんはここ40年間日本人の死因第
1位となっています。がんになる人の数
(罹患者)は、高齢化
を主要因として増え
続けており、日本で
2020年に新たに
がんを罹患した人は、
約101万人と推計
されています。

骨転移とは？

がんにはたくさんの種類があります



が、ほとんどすべてのがんと関係あるの
が、骨転移です。骨転移とは、もともとが
んが発生した部位からがん細胞が血流
のつて骨に移動し、そこで定着して増
殖し、腫瘍を形成することです。骨転移
しやすい部位は、背骨、骨盤骨、大腿骨な
ど体の中心に近い骨です。頻度はがんの
種類によって大きく異なり、日本人に多
いがんでは、乳がん、前立腺がん、肺がん
で多く、胃がんや大腸がんなど消化器が
んでは比較的少ないです。近年では、が
ん治療の進歩により生存期間が長くなっ
ており、治療経過中に骨転移による症状
が問題となる場合が増えていきます。

骨転移は命の危機に直結しないこと

が多いですが、主な症状である痛み、病
的骨折、神経障害は生活の質を著しく低
下させます。どの症状もつらいものでは
ありません。中でも背骨の転移による脊髄障害は
麻痺が完成してしまうと不可逆的であ
り、回復が望めません。下半身不随で寝
たきりになったり、排泄のコントロール
機能を失ったりと、本人、介護者の負担
は計り知れません。

骨転移の放射線治療

骨転移の治療の中で、重要な役割を果
たしているのが放射線治療です。放射線
治療は、体の外部からX線を骨転移部に
照射します。1回の治療にかかる時間は
15分程度で、照射中に痛みや熱さなどを
感じることはありません。従来は、1日
1回を合計10回(2週間)行うのが一般
的でしたが、最近では、5回(1週間)や
1回で治療する場合も増えています。痛
みの改善率は、6割から7割程度で、そ
のうちの半分は痛みが消失します。改善
効果は、早ければ数日で認められ、有効
例の半数は3、4週間程度、大部分は
8週間以内に認められます。副作用は倦
怠感や悪心、皮膚炎などが主なもので、
重篤なものは少なく、身体への負担が少

ない治療といえます。

放射線治療は、痛みの改善効果だけ
なく、病的骨折や脊髄麻痺の予防効果も
経験的に認められており、それらのリス
クが高い場合は行う意義があります。

放射線治療の問題点は、治療後に痛み
が再発した時に、同じ部位には再度治療
をしないことです。人間の臓器や組織
には耐えられる放射線量の上限があり
ますので、それを超えると重篤な合併症
のリスクが高まってしまいます。1度し
か治療できない部位が多いので、他の治
療法と組み合わせる治療していくこと
が重要です。

骨転移の放射線治療は、主科より放射
線科に依頼されて行われることがほと
んどです。骨転移の症状で困っている方
は、まずは主治医に相談してください。

